

## 早慶戦で代々木第2は満杯！

## 【Dr. 辻のバスケ考】

所属意識が  
スポーツを盛り上げる野球・バスケで  
盛り上がった早慶戦

NBAの暮さを先月は解説しましたが、日本にも観客がたくさん入り盛り上がるスポーツがあります。早慶戦がその一つ。伝統校同士の戦いは多くの観客を集め、選手たちの



バスケの早慶戦には、今年も多くの観客が実際に駆けつけた

テンションも高くなります。ちょうど6月に2つの早慶戦を実際に見に行きました。

6月2日は神宮球場で行われた野球の早慶戦です。両校に優勝の可能性のある第1戦でした。早稲田の奇跡投手が投げたのではないかと

ケットのOBが3人も働いているので、当然盛り上がりしました。例年通りの接戦でしたが、結局、慶応が勝利しました。

田臥勇太選手の出るバスケットの試合以外で代々木第2が満杯になるのは、早慶戦くらいでしょうか！

人気が集まる  
3つの理由とは？

さて、なぜこんなに早慶戦は盛り上がるのでしょうか？ 野球はともかくバスケに関しては奇跡投手のようなスターはいませんが、そこにはスポーツの本質を探るいくつかの条件が、そろっているように感じるので、まず1つは選手がそのレベルを問わず真剣で一生涯懸命であること、観るスポーツの楽しみとしてレベルの高いプレイよりも、そこに存在する一生涯懸命さが絶対条件だと思います。夏の甲子園を日本人が好きなのもこの条件を満たしているからだと思います。

次に選手と観客との距離が近いこと、つまり現役選手と知り合いでファンでもあるという、実際に会場に来るような人間関係を構築していることも条件だと思います。私の後ろにいた若い女性2人組みと別のご夫婦は、試合中、まるで知り合いのよう

に選手たちの名前を叫んでいました。

そして、もっとも感じたのが両校の所属意識の高さです。何よりも早慶のOBとして自分たちは両校の関係者だというプライドを感じます。組織に所属意識が生まれるのはどういふときなのでしょう？ やはり人間の心理として、所属していることが自分自身のプライドに繋がっているという社会的状況の存在が必要だと思えます。自分の価値を求め、人間は、所属することによって、その組織の価値で自分の価値も高まると感じているのです。そのためには大ききその大小は問わず、その組織自体がどんな理念でどんな活動をしているかなどが所属する方には重要になってくるのでしょうか。

早慶はその典型ですが、地元根付いたヨーロッパ型のスポーツにおいて、ファンはもちろんその地域への所属意識がスポーツを盛り上げているのではないのでしょうか！ みんなで元氣・感動・仲間・成長を感じ合う快感なんともいえませんから！

辻 秀一  
(つじしゅういち)  
スポーツドクター

1951年東京都生まれ。北海道大学医学部卒業。慶応義塾大学で内科研修を修め、その後、スポーツ医学とスポーツ心理学を専門とする。現在エニックス代表

としてさまざまな人のODL向上をテーマに、米国や欧州に対しチームドクターとしてカウンセリングやメンタルトレーニングをサポートしている。www.amirecross.com、03-5474-3755。子どもたちの人間性を目的としたスポーツ「チームエニックス」や、学生バスケットボールチーム「No Excuse」、其の不自由な人たちのバスケット「Rough」、天皇杯勝利を目指すトップバスケットチーム「Excellence」、誰でもが参加できるストリートバスケット「エニックスクラブ」なども運営するNPO法人エニックス・スポーツワールドの代表でもある。またビジネス界、産業界にスポーツ心理学を「社メンソッド」として導入しビジネスマンや企業家をサポートしている。

主な著書に「スラムダンク勝利学」(集英社インターナショナル)、「人のために生る人、ならない人」(バジリコ社)、「読書を強さに変えるセルフコーチング」(講談社)、「心のカコーティング」(講談社)、「ほんとうの社会力」(日経BP社)、「読書のためのこころのレッスン」(集英社の友社)など著書多数。